

秋の例大祭



伊奈岩走神社例大祭 神輿納めの時 疲れた顔にも笑顔が



活力を取り戻そう 地域に力を!

令和5年秋号 発行者/小山 正弘 編集/あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

11月の文化

あきる野市町内会・自治会連合会 会長 小山 正弘

平成七年に秋川市と五日市町が合併し、あきる野市が誕生しました。そして二つの連合会は平成十一年に合併し、あきる野市町内会・自治会連合会が発足しました。あきる野市となって、二十四年も経っているのだから、当然、「二」と単純に思っていました。

私は旧秋川市出身ですが、ある時、旧五日市町の方と葬儀の香典について話していると、どうも話しが噛み合いません。相場が違いました。旧秋川市の町内会・自治会の会員宅への香典の相場はだいたい五万円。一方、旧五日市町の自治会の相場はだいたい二万円でした。驚いてしまいました。もともと別々に活動してきた二つの地域です。いくら隣といっても文化や歴史、伝統が違っているのは当たり前でした。簡単に同じになるはずがありません。そしてこの文化の違いは互いに尊重し合うべきものです。

「あて職」をご存知でしょうか？例えば、自治会長になると、自動的に〇〇委員とか〇〇会の役員とかをセットになって就任してしまつてしまいます。旧五日市町の自治会長には大抵、二〜三以上のあて職がついています。一方、旧秋川市の町内会長・自治会長にはあて職がほとんどありません。旧五日市町の自治会長はあて職の分、忙しいことになります。先ほど書きましたように、文化や伝統が違うのですから、このことに何の問題もなく、歴代の自治会長も忙しい業務をこなしてこられました。何が違った？

ところが最近、旧五日市町の自治会長から「忙しい」「業務を減らしてほしい」「会議の回数を半分にして」との声をよく聞くようになりました。何故だろう。今までの自治会長は「こなしてきたのに、今の自治会長も優秀な方々なのに」と言えました。私なりに出した結論が「今の自治会長は在職者が多い」ということです。最近では、皆さん七十五歳位までは普通に働いていたりします。「仕事+自治会長+あて職」ですから、忙しい。

そこで、このあて職を切り離せないかと思ひ、改善案を少しずつ提案しています。自治会長のなり手がなくなってしまうまいかと。

どうか皆さん、ご理解ください。そして切り離せたあて職を分散させて、みんなが引受けていただき、地域をより盛り立ててほしい。どうぞよろしくお願ひします。

今、こんなことがあります 連合会云



多西地区体験型防災訓練に向けて

多西地区実行委員会代表 折立町内会 岡野 一夫、原小宮町内会 石毛 正典、松山町内会 恩田 敏男

多西地区体験型防災訓練の実施までの準備計画の段取りについて記載してみました。

- 1. 初期の計画では近隣の町内会での訓練を予定しておりましたが、多西地区での町内会において、新人の会長さんが企画に賛同して町内会全体として18地区の町内会合同での開催となりました。
2. 実施に当たり費用面では「令和5年度東京都地域の底力発展事業助成」の対象事業として100万円の助成を受けて実施します。
3. 体験型を重視して、企画会社に依頼。機材準備、指導までを行ってもらう。企画が難しい内容を専門業者への依頼により盛り込めた。
4. 町内会側としては会場（秋留台公園、あきる野市民プール前駐車場）を準備。町内会員への案内は3500枚のチラシにて行い、参加賞なども準備。秋川消防署、あきる野市消防団第2分団、防災・安心地域委員の応援協力の下で実施します。
5. 東京都助成金申請に当たり多西地区町内会・自治会連合会の規約を提出する必要があるが、規約が無くて他地区の規約を取り寄せて参考にした。
6. 準備段階でありますが、18町内会の市民の参加により体験型防災訓練を開催し町内会住民の防災意識の向上につながることを期待します。

体験型防災訓練のお知らせ 「多西地区町内会自治会連合会防災訓練」 下記のとおり、防災訓練を行います。今回の防災訓練は体験型防災訓練です。女性や中学生の皆様も楽しめる内容になっています。ぜひ、ご参加ください。
日時：11月23日（木、祝）9時00分～12時00分（雨天決行）
場所：草花公園・あきる野市民プール前駐車場（奥側半分）
訓練内容
○講習：災害時の実情や災害後の活動についてご紹介
○体験訓練：家具挟まれ体験・救出体験 体験型
非常用トイレ活用訓練
非常用浄水器活用訓練
閉じ込め車両脱出体験 体験型
災害時のTシャツで包帯作り体験 体験型
★負傷者救出レース 体験型
「この体験が災害時にあなたと家族を守る！」
ぜひ、体験型防災訓練にご参加ください。
訓練会場へお越しの際は、自転車や徒歩、お車の場合は駐車場に限りがありますので乗合せなど、ご協力をお願いいたします。
主催：多西地区町内会自治会連合会、多西地区防災安心地域委員会
協力団体：東京消防庁秋川消防署、あきる野市消防団第2分団、一般社団法人西多摩減災・防災ネットワーク
この防災訓練は、「令和5年度東京都地域の底力発展事業助成」対象事業です。

令和5年度 町会支援対応防災訓練カリキュラム 多西地区町内会自治会連合会(11/23) 防災訓練カリキュラム
9:00~9:20 担当者挨拶・訓練概要説明（グループ分け）
9:20~9:30 防災講習会
9:30~10:00 資機材取り扱い講習会
取り扱い訓練
・非常用浄水器 ・災害用トイレ
10:00~10:10 休憩
10:10~10:50 災害体験（20分で入れ替え）
震災体験訓練
・家具転倒挟まれ体験
・家具転倒救出体験
閉じ込め車両脱出体験
・代表の方が体験
窓ガラス飛散状況体験
・見学（飛散防止シート有無）
10:50~11:00 休憩
11:00~11:30 災害時のTシャツ包帯作り（子供を中心に体験）
11:30~12:00 負傷者救出レース
12:00~12:10 主催者挨拶
防災訓練終了

元あきる野市町内会・自治会連合会会長 網代和夫さん
東京都功労者表彰おめでとうございます



会報部会より

元あきる野市町内会・自治会連合会 会長 網代和夫さんは、この度の東京都功労者表彰にて地域活動功労として 10 月 2 日表彰された。

氏は網代地区自治会長を 6 年就任されたのち連合会会長として 2 期 4 年間就任された。

自治会長の時には、網代自治会会館建築に当り、地域の交流の場として、秋川南岸地域の災害時避難場所として、既存の会館の耐震性が不十分として会館新設に踏み切った。また連合会長の時には、あきる野市の町内会・自治会の防災訓練を防災・安全地域委員会と協力、秋留台公園を使用しての防災訓練を実施した。実施に当たり東京都からの防災補助金を利用するなどして防災用品の拡充に努め各地区での防災意識向上に努めた。

退任後は、多摩モノレールの箱根ヶ崎駅からの延長申請の委員長として活躍。地元活動として台風 19 号により橋脚が損傷し通行不能となっている網代橋。増戸小・中学への通学路として学童は元より、生活用品の買い出しでも困っている地域のため、網代橋再建のための代表としても活躍中です。

親子でみつばちファームを体験学習

上館谷自治会 会長 村瀬 昌平

あきる野市コミュニティ事業交付金を活用して、小中学校 PTA の夏休み子供会の行事「第 1 回上館谷夏休み親子自然体験教室」を企画し、8 月 22 日に実施しました。内容は、小・中学校を対象とした地元に密着した親子自然体験教室を考え、あきる野市上ノ台にある「みつばちファーム」の協力で、蜜箱の中の観察や蜂蜜の味の比較などの体験学習を中心に、養蜂家の仕事や自然と人間のつながりの大切さについて学びました。参加した子供や保護者の方からも好評で、有意義な一日を過ごすことができました。来年度も同じような企画を検討中です。



花壇を生かして、地域の癒しを！

油平自治会 会長 小針 幸光

油平自治会は、秋川駅を中心として南北に細長い地域にあり、油平クラブハウスと運動広場の一角に花壇を作っています。あきる野市花いっぱい運動には毎年参加しており、お花を植え、世話をし、常に成長を見守り、お花のある美しい街づくりを楽しんでいます。自治会文化福祉部が花壇を担当し、毎年、皆でテーマを考え、デザインを決め、様々な種類と色の花苗を植え付けます。一斉清掃前日の午後



に大勢で花苗の植え付けをしています。花壇に水を与えると花壇がまた甦（よみがえ）り、元気な心の癒しの花壇が戻ってきます。水やりは本部役員・理事の 24 名が当番制で初秋まで続けます。「おいしい水、いつもありがとう」と花々の囁きが心に聴こえて来るようです。花壇の手入れは文化福祉部の皆さんが週二日、二手に分かれて行います。大雨が降ると植えた花が大分傷み、私達の心も痛みます。一生懸命に世話をし、また元気な花を誇らしげに咲かせてほしいです。地域で花の好きな方、花を育てる仲間になりませんか？いつでも気楽に参加してみてください。お待ちしております。

追伸；

9 月 29 日の花壇を見たら写真の様に今年の暑さにもめげず元気に花を咲かせた花壇が有りました。日頃の丹精した花々でした。

令和 5 年
八坂神社例大祭開催される

留原自治会 会長 荒井 實

中村自治会 会長 宮崎 慶一

八坂神社例大祭が 4 年ぶりににぎやかさを取り戻し開催された。令和 2 年から始まったコロナ渦で中止となったり縮小したり、いつになったらお祭りが出来るかと、多くの方が思っていたことでしょう。

コロナが無くなったわけでもなく、4 年間のブランクは想像以上に大きい物が有り、各地でのイベントで事故などの報告も聞き、一気に元に戻すのではなく段階的に戻そうと決定しました。大人神輿は都道の往復、氏子周りは順路を見直し短縮をして、一般宅の御旅所や、例年お寄りしている 2 カ所の高齢者施設での休憩・飲食はご遠慮申し上げ感染防止に配慮しました。

お祭り当日には、多くの子供たちが参加して、お神輿を一生懸命担ぐ子、お囃子の子、山車を引く子、盆踊りの輪にも多くの子供が加わり、4 年ぶりのお祭りを盛り上げて大人たちも楽しい祭礼の一時でした。



編集後記

暑い夏が終わったかと思ったら涼しさを通り過ぎ秋から冬と思うような温度差です。季節が四季から二季の夏と冬になっちゃったようです。しかし、コロナから解放され、各地区で多くの秋祭りが盛大に行われ賑わいを取りもどしてききました。また、いつ起こるか分からない災害に備え多西地区では大規模な防災訓練が計画され防災の意識向上に一役買っています。地域の違いや、時代の流れも速く高齢者の常識も若い人には通じないようになっていきます。機関誌も、手書きからワープロ、パソコン、インターネットの利用等著しく進化し、物を調べたり、記憶しなくてもスマホで検索すればすぐに答えが見つかるような時代になりました。自治会機関誌も時代の波に取り残されず。栗原清治

栗原 清治